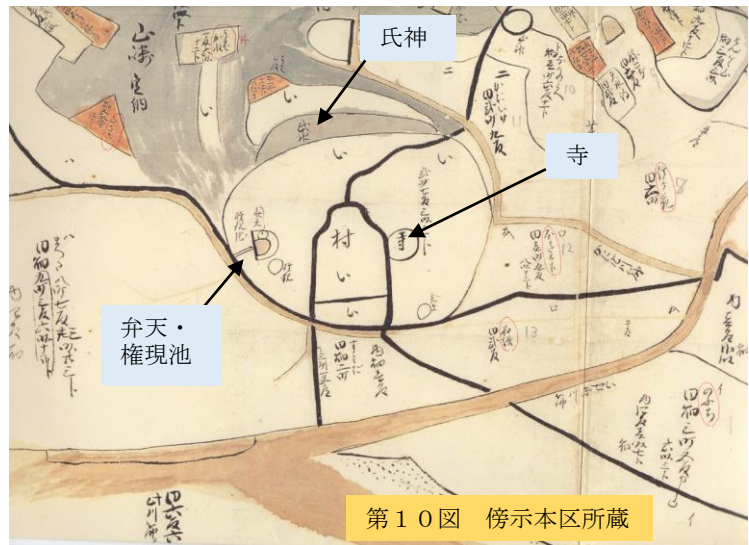


江戸時代の傍示本村

村絵図集の中にある傍示本村絵図（第8図から第11図）について、絵図の中にある地名（小字名）や人口、凡例、社寺等の表記、給人（被給地者）の氏名などの特徴を比較して年代の推定を試みました。

年代がわかれば江戸時代の傍示本村の様子を知る手掛かりとなる筈です。第8図だけが天保12年丑6月（1841）と記載されています。

絵図のほかに、寛文13年（1673）編纂の「寛文村々覚書」や寛政4年（1792）～文政5年（1822）編集で、天保14年（1843）完成の「尾張徇行記」等の文献も参考としました。村絵図集は町立図書館のほか、役場の生涯学習課やいこまい館の中にある郷土資料館で見ることができますので、ぜひご覧になってみてください。

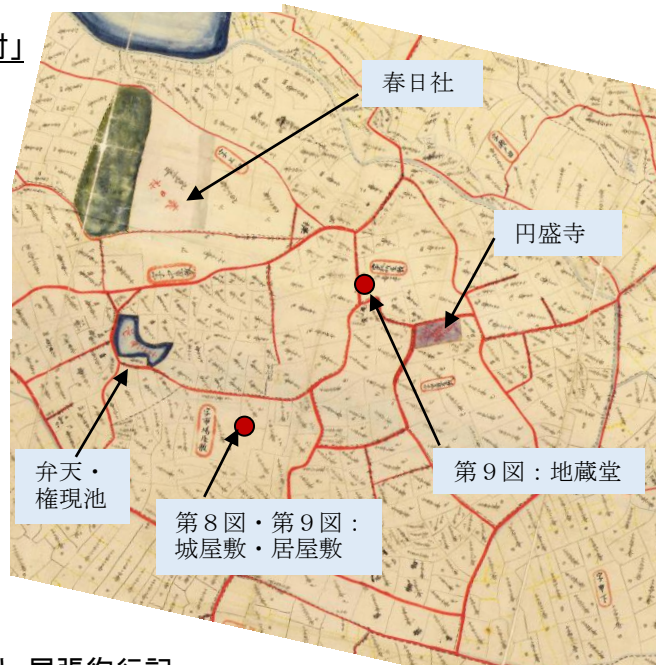


村名表記と凡例表記

第8図・第9図・第10図には、「愛知郡傍示本村」と表記され、第11図と寛文村々覚書や尾張徇行記には、「鳴海庄傍示本村」と表記されているので、第11図が一番古い絵図のようです。

「御本田御給知、御本田御蔵入、御蔵入新田」など、第8図と第9図がほぼ同一表記。

第10図の「本田、高成、代官見取、御村方見取」と、第11図の「本田田方畑共、新田田面、御代官見取田畑、御村方見取田畑」の表記は類似しています。



戸数・人口

第11図には、「家数116軒、人数463人内（男224人、女239人）、馬6疋」と記載されており、尾張徇行記の記述と合致しているので、第11図は「尾張徇行記」の頃に描かれたようです。

M18年 地籍図

城屋敷・居屋敷

傍示本城跡の所在地と考えられる場所に、第8図では「居屋敷」、第9図では「城屋敷」と文字が記載されているのに対し、第10図と第11図には関連の文字は記載されていません。

神社・寺院名

神社の表記は、第8図と第9図で「氏神 春日大明神」と書かれ、ともに3棟の建物が描画されています。第10図では「氏神」とだけの表記。第11図は「春日明神」と表記されています。

寺院の表記は、第8図と第9図が「円盛寺」、第10図と第11図が「寺」と書かれています。

描画表現は、第8図と第9図が似ており、第10図と第11図が似ています。

薬師堂と地藏堂

第10図や第11図には、「薬師」の表記があり、第8図と第9図にはありません。第9図には、「地藏堂」のみが描かれています。

薬師堂については、寛文村々覚書・尾張徇行記・尾張志等に記載されており、覚書には「年貢地」、尾張徇行記では「5反御除地」と記されていますので、江戸時代中期頃には、広い土地を有して存在していたと考えられます。

これらのことから薬師堂は、第10図・第11図の作成以前から存在していたが、第10図・第11図作成後に廃堂となったようです。

地藏堂については、覚書に記述はなく尾張徇行記・尾張志に記載されていることから江戸時代後期頃の建造と考えられ、第9図の作成前に建てられたようです。堂は、火の見櫓の辺りにあった(昭和50年代調査)と言われています。

被給地者の氏名

第8図と第9図は、記載されている給人が「山上」・「服部」を除いて、ほぼ一致しており、絵図の作成は同時期といえます。

まとめ

4枚の絵図の中では、村名表記例から第11図が一番古い絵図と考えられます。

「山の神」が、第8図・第10図・第11図に記載されていて、第9図にはありません。

池名の中に同じ池と思われる池で第10図「志い池」⇒第8図「志池」⇒第9図「新池」があり、これは池名の当て字の違いと考えられることから、一番新しい絵図は、第9図と推測できます。

第8図 被給地者毎の「石高と給地筆数」

高橋浅之丞	100石	24筆
能瀬勘之丞	100石	24筆
山上官十郎	80石8斗3升8合	15筆
佐久間頼母	65石	15筆
和田茂太夫	61石4斗5合	19筆
平井半左衛門	60石	16筆
相原駒吉	38石9斗5升7合	13筆
近藤水左エ門	29石2斗5升1合	15筆
長谷川金十郎	24石4斗3升5合	17筆
阿知波平六	24石4斗3升5合	13筆
鈴木音吉	24石4斗3升5合	11筆
沢登 廉三郎	24石4斗3升5合	8筆
天野孫市郎	21石9斗5升1合	11筆
市川藤左エ門	21石9斗5升1合	10筆
稲生堂八	21石9斗5升1合	7筆
服部只左衛門	6石4升3合	6筆
関 市之右エ門	2石2斗8升8合	9筆
計		233筆

第9図 被給地者毎の「給地筆数」

高橋浅之丞	21筆
能勢勘之丞	18筆
和田茂太夫	16筆
山上勘重郎	15筆
長谷川金十郎	14筆
佐久間頼母	13筆
近藤水左エ門	13筆
平井半左衛門	12筆
相原駒吉	12筆
沢登 廉三郎	11筆
稲生堂八	11筆
服部只右衛門	10筆
阿知波平六	10筆
天野孫市郎	9筆
鈴木音吉	9筆
市川藤左エ門	7筆
関市之右エ門	6筆
計	207筆

